

## 西之島の火山活動解説資料（平成 26 年 10 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

6 月 11 日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報を切り替えました。その後、警報事項に変更はありません。

### 活動概況

< 10 月 16 日の状況（図 3 ~ 5） >

16 日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、火砕丘の火口からは短い間隔で溶岩片と共に褐色の噴煙を放出する噴火（ストロンボリ式噴火）を繰り返していました。9 月 17 日に確認された火口列はなく、一つのすり鉢状の地形を形成しているのが確認されました。火砕丘山腹の北側からは溶岩流が流出して広がり、海岸に達していました。また、新たな陸地は、溶岩流により 9 月 17 日の調査時と比較して北方向へ約 250 ~ 400m 延び西之島旧島のほとんどを埋没させており（図 3 矢印、図 4）大きさは、東西方向に約 1,530m、南北方向に約 1,720m、面積は約 1.85km<sup>2</sup>（前回 9 月 17 日：1.49 km<sup>2</sup>）でした（図 5）。

変色水域は、薄い茶褐色で西之島の北岸、西岸、南西岸から西方向に幅約 2,000m 長さ約 2,000m の帯状に分布しているのが確認されました。

上記の他に海上自衛隊等の観測により、噴火及び溶岩流の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 11 月分）は平成 26 年 12 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上保安庁及び海上自衛隊のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

西之島は、東京の南方約 1000km、父島から西に約 130km に位置します。

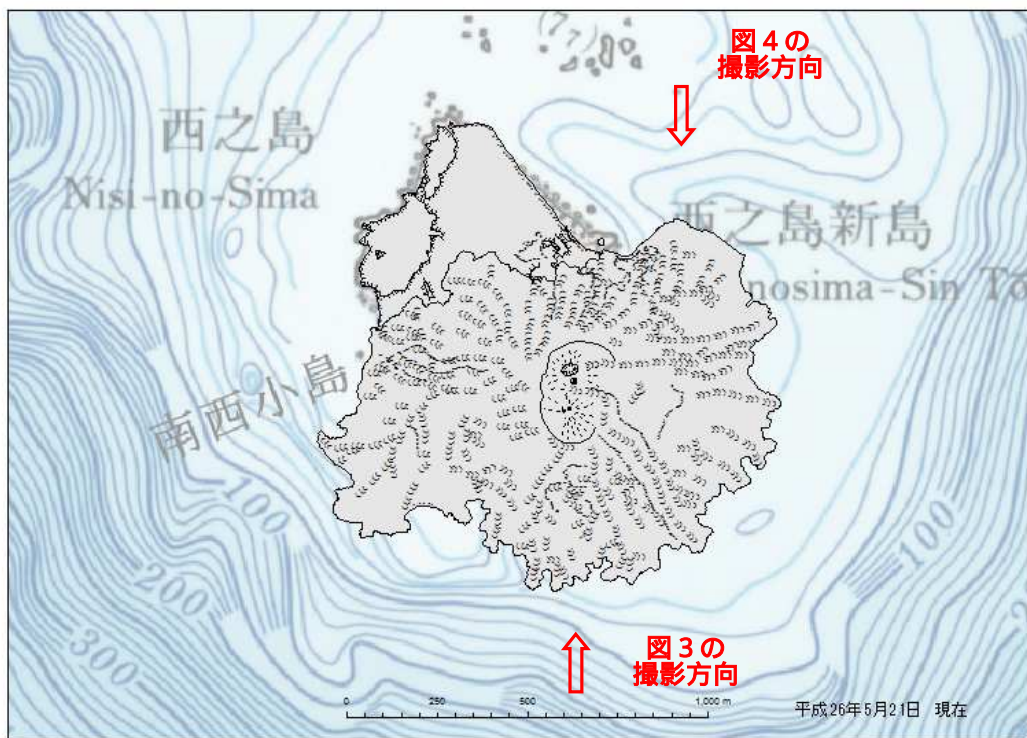


図2 西之島 主な撮影方向  
西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。



図3 西之島 活動状況（海上保安庁作成）  
火砕丘山腹の北側からは溶岩流が流出して広がり、西之島旧島の大部分を覆い、海岸に達していました。



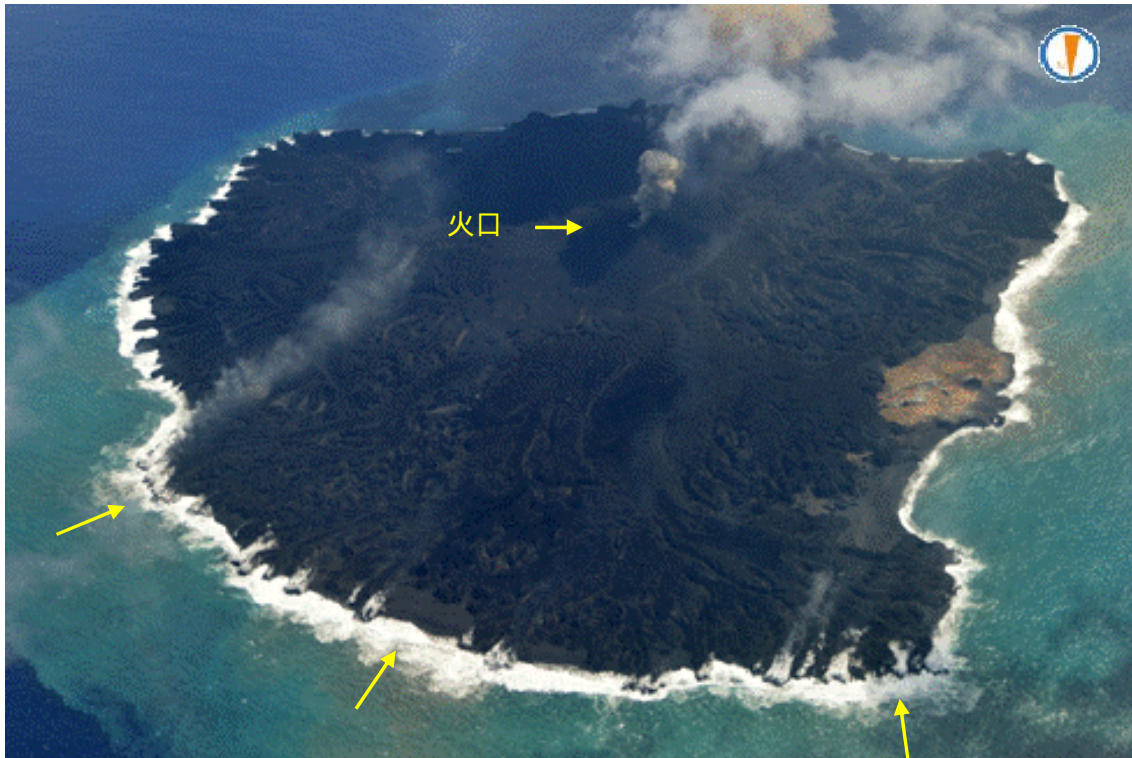


図4 西之島 火口列付近の状況（10月16日12時57分 北方向から撮影・海上保安庁提供）  
火砕丘山腹の北側からは溶岩流が流出して広がり、西之島旧島の大部分を覆い、海岸に達していました（矢印）

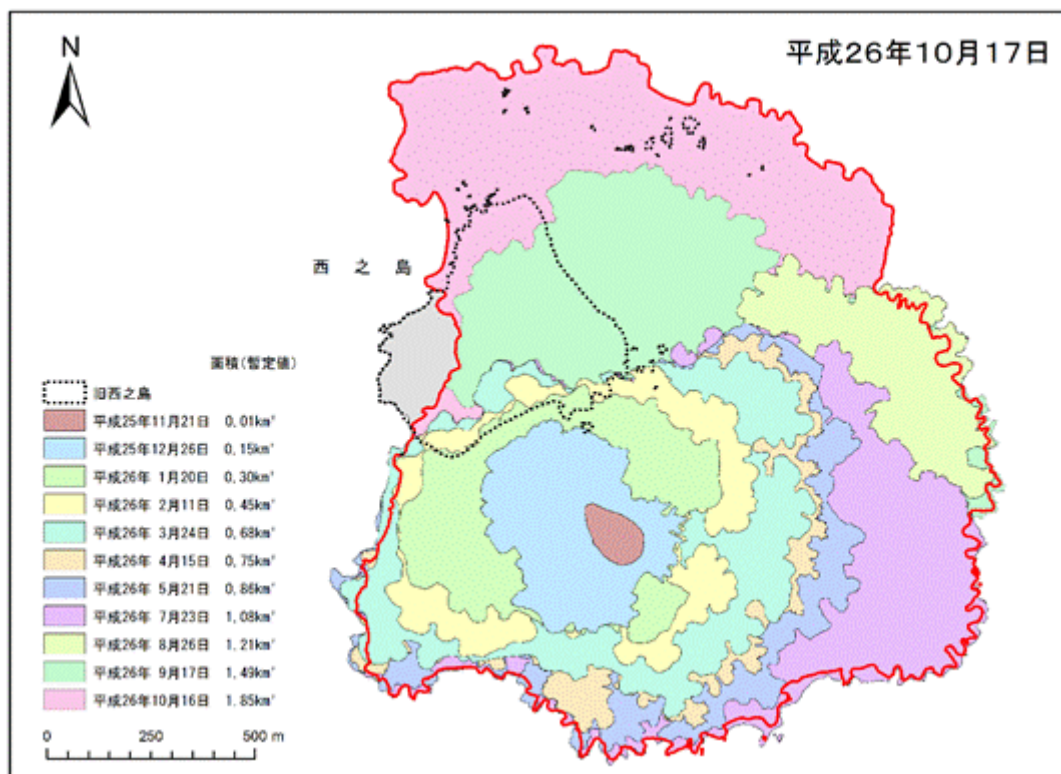


図5 西之島 面積変化図（海上保安庁作成）  
新たな陸地の大きさは、東西方向に約1,530m、南北方向に約1,720m、面積は約1.85km<sup>2</sup>（前回9月17日：1.49 km<sup>2</sup>）でした。